

42
915



上

上



會津中將

○ 戦死する者の墓
 衆とみくし民の塗
 瘞とぬんんと種ゆ
 一々路々此もせり
 長き成集ちてとて
 臣子と捧げつた
 傍利とほへおし
 のごとく 瘞る本

あしより一
 藤原に清元
 福次
 大織

七蔵
 扶全
 一蔵
 一蔵
 一蔵
 一蔵

一

五

つぎ 園遊の保身の御舞は
 向うの舞池に 清き水の流
 為とまをり、やよは流れて
 一か舞池の御舞は
 清き水の流
 向うの舞池に 清き水の流
 為とまをり、やよは流れて
 一か舞池の御舞は
 清き水の流



西村政見郎

「松屋」にて御舞は
 と松屋の御舞は
 向うの舞池に 清き水の流
 為とまをり、やよは流れて
 一か舞池の御舞は
 清き水の流

松平太郎

つぎ 園遊の保身の御舞は
 向うの舞池に 清き水の流
 為とまをり、やよは流れて
 一か舞池の御舞は
 清き水の流



榎原健吉

「松屋」にて御舞は
 と松屋の御舞は
 向うの舞池に 清き水の流
 為とまをり、やよは流れて
 一か舞池の御舞は
 清き水の流

つぎをて早一頭旗をせ
どめあふせえ頼因はう
なる一徹は



彰義隊

困りたる
たのしみ
あもり
内とく
官軍
ええのり

文政
頼田町
軍和後
朝建
中ふゆ

之助
は
其のむじ
者
研
由
軍
官軍



之助
は
其のむじ
者
研
由
軍
官軍

頼田町
軍和後
朝建
中ふゆ



官長有る小海
 官長はついでに
 府下へも集一はる軍
 とも事と事げむ
 互ひに遠坂を
 観望しつゝ
 あり肩トも
 鶴井の南門
 なる有候
 り柳と
 湯の成
 血の

藤の所へ
 と浪迫子
 名とつて
 なる



烏合の毛集
 軍法
 中
 頼の光澤
 衆沓世の丸
 是上
 せんと
 義隊の
 義隊

且る

独
 やく
 り
 ち
 ち
 一
 妨



つぎ 新刀おじ
 招一投けは玉教る
 明光とよまあまおと
 氷りの双足ふら
 自由眩取と編
 せまき足法
 と集まき有と
 娘としをひら
 燈来とつら抱教のち
 方あめりふ人十と群とむま
 びまを園ち市中を感深て
 ち一旦一官軍がよめ遊下

かきまはる理り
 けみあつと法
 こま
 けふ
 日世を此方ハ
 生れく理亭
 いかう燈を死
 こそ由和けしめも
 深合のあは膝痛
 者えるぬあ
 まえんあて来
 まうとてうも
 甘きゆのあ
 びあふんと
 傲悟のうら
 強が全塔



とれハ望峰突つもの
 夢河
 任せ
 て悪
 以難
 ちの
 あり初
 うら軽
 民
 府は
 新

無切
 母牙の
 糸とこ
 礼果後
 集指ま
 多橋ふらふと官軍
 うん教した軍はのら
 あつて教よ空曉
 まらぬあう福をた知が去
 士
 あり田神
 田次切
 ありや例の
 如く
 軍は人未かる向へ
 斬殺隊由月とく
 軍人ちうう初さ
 濃入まはる
 刀の鞘は武

上野上

七

とき 志はに火をせしむるに戦ひ
 一宮軍方へまはやくくるよ
 花成あふるは人まをす場
 は別を死しる供ら斬
 後源由一人の目く斬ら
 是死んでありアチ地
 一宮軍方へまはやくくるよ
 志はに火をせしむるに戦ひ
 一宮軍方へまはやくくるよ
 花成あふるは人まをす場
 は別を死しる供ら斬
 後源由一人の目く斬ら
 是死んでありアチ地
 一宮軍方へまはやくくるよ



